



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

2019 年第 49 週 (12/2~12/8) 【概要版】

2019 年 12 月 12 日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- (1) 滋賀県内のインフルエンザの報告数が 48 週より 1.95 倍増加し、注意報が発令されました。特に大津市、甲賀および東近江保健所管内で増加しています。また 48 週と同様に、小学生低学年の児童に多く報告されています。近隣府県と比べて高い値で推移していますので、今後も手洗い・咳エチケット等の感染予防を心掛けてください。
- (2) 感染性胃腸炎は先週と比較し 1.42 倍増加し、ノロウイルス食中毒注意報が発令されました。また、大津市、東近江および彦根保健所管内で多く報告されています。
- (3) 後天性免疫不全症候群の年間累積報告数が 12 人となり、2014 年以降で最も多くなりました。滋賀県における 2014-18 年の「いきなりエイズ」(報告時の病型が AIDS)の割合は、全国と比べて高い値です。また、滋賀県では、各保健所で無料・匿名のエイズ検査を行っています。検査を希望される方は、事前に各保健所までご相談ください。

2. 報告数が多かった定点把握疾患(五類感染症) (i)

(1) 滋賀県

疾病名	滋賀県						保健所別 (iv)						
	2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ	1.85	5.15	10.02	注	○	○	注		注	注	↑		↑
感染性胃腸炎	2.87	3.29	4.68				多	↑	↑	多	多	↑	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.16	1.26	1.45				多	多	多	↑			↑

(2) 前週の全国および近隣府県の状況(下線; 滋賀県よりも多い)

疾患	全国	滋賀県	大阪府	京都府	福井県	岐阜県	三重県
インフルエンザ	<u>5.52</u>	5.15	1.99	2.79	3.30	3.03	2.69
感染性胃腸炎	<u>5.34</u>	3.29	<u>6.83</u>	<u>3.57</u>	<u>8.87</u>	3.26	<u>4.11</u>
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<u>3.10</u>	1.26	<u>3.00</u>	<u>2.01</u>	<u>3.22</u>	0.85	<u>2.11</u>



3. 全数把握疾患(滋賀県、今週診断例)

類型	疾病名	滋賀県					保健所別						
		2週前	1週前	今週	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
二類	結核	2	2	3	○		1	1					1
五類	後天性免疫不全症候群	0	0	1	○	○			1				
五類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	2	○	○	2						
五類	梅毒	1	1	1	○		1						
五類	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	1	○		1						

- i. 定点把握疾患: 人口及び医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握
- ii. 警; 警報発令、注; 注意報発令
- iii. 今週の値が過去 5 年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値 + 2 × 標準偏差」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記(定点把握疾患の平均値は過去 5 年間の前週、当該週、後週の合計 15 週の平均を利用)、百日咳は 2018 年より全数把握とされているため、本標記対象から除外
- iv. 「警; 警報開始基準値を超過」、「注; 注意報基準値に到達」、「多: 今週の滋賀県の値よりも多い」、「↑: 前週比増加」(「警報」、「注意報」、「多」、「↑」の順に優先して標記)

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

2019年第49週(12/2~12/8)【詳細版】

2019年12月12日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- (1) 滋賀県内のインフルエンザの報告数が48週より1.95倍増加し、注意報が発令されました。特に大津市、甲賀および東近江保健所管内で増加しています。また48週と同様に、小学生低学年の児童に多く報告されています。近隣府県と比べて高い値で推移していますので、今後も手洗い・咳エチケット等の感染予防を心掛けてください。
- (2) 感染性胃腸炎は先週と比較し1.42倍増加し、ノロウイルス食中毒注意報が発令されました。また、大津市、東近江および彦根保健所管内で多く報告されています。
- (3) 後天性免疫不全症候群の年間累積報告数が12人となり、2014年以降で最も多くなりました。滋賀県における2014-18年の「いきなりエイズ」(報告時の病型がAIDS)の割合は、全国と比べて高い値です。また、滋賀県では、各保健所で無料・匿名のエイズ検査を行っています。検査を希望される方は、事前に各保健所までご相談ください。

2. 定点把握疾患(五類感染症)の定点当たり報告数(全国は前週の値) i, ii, iii, iv

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県					保健所別 (iv)							全国 (前週) (iv)	基準値			
		2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜		高島	警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数:52)	インフルエンザ	1.85	5.15	10.02	注	○	○	21.82	1.70	16.29	12.50	4.14	2.00	3.00	5.52	30	10	10
	RSウイルス感染症	0.65	0.39	0.29				0	0.17	0.25	1.20	0.25	0	0	0.52	-	-	-
	咽頭結膜熱	0.32	0.29	0.42		○	○	0.43	1.00	0.25	0.40	0.25	0	0	0.63	3	1	-
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.16	1.26	1.45				0.86	1.67	3.75	1.60	0.75	0.33	1.00	3.10	8	4	-
	感染性胃腸炎	2.87	3.29	4.68				7.71	2.17	2.00	8.20	5.75	1.00	1.50	5.34	20	12	-
小児科 (定点数:31)	水痘	0.35	0.65	0.32				0	0.33	1.25	0.20	0.25	0	0.50	0.59	2	1	1
	手足口病	0.35	0.29	0.45				0.14	0.17	0.50	0.20	0	0	4.50	1.08	5	2	-
	伝染性紅斑	0.58	0.58	0.71		○	○	0.29	0.67	0.75	2.40	0.25	0	0	0.60	2	1	-
	突発性発しん	0.19	0.13	0.26				0.14	0.33	0.50	0.40	0.25	0	0	0.39	-	-	-
	ヘルパンギーナ	0.19	0.42	0.16		○		0	0	0	0.60	0	0	1.00	0.13	6	2	-
	流行性耳下腺炎	0.16	0.06	0.06				0.14	0.17	0	0	0	0	0	0.06	6	2	3
眼科 (定点数:8)	急性出血性結膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.01	1	0.1	-
	流行性角結膜炎	0	0.13	0				0	0	0	0	0	0	0	0.59	8	4	-
基幹 (定点数:7)	細菌性髄膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.03	-	-	-
	無菌性髄膜炎	0	0.14	0				0	0	0	0	0	0	0	0.05	-	-	-
	マイコプラズマ肺炎	0.14	0.29	0.29		○		1.00	0	1.00	0	0	0	0	0.38	-	-	-
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.00	-	-	-
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0	0.14		○		0	0	0	0	0	0	1.00	0.02	-	-	-
	インフルエンザ (入院例に限る)	0.14	0.43	0.29		○		1.00	0	0	0	0	0	1.00	0.61	-	-	-

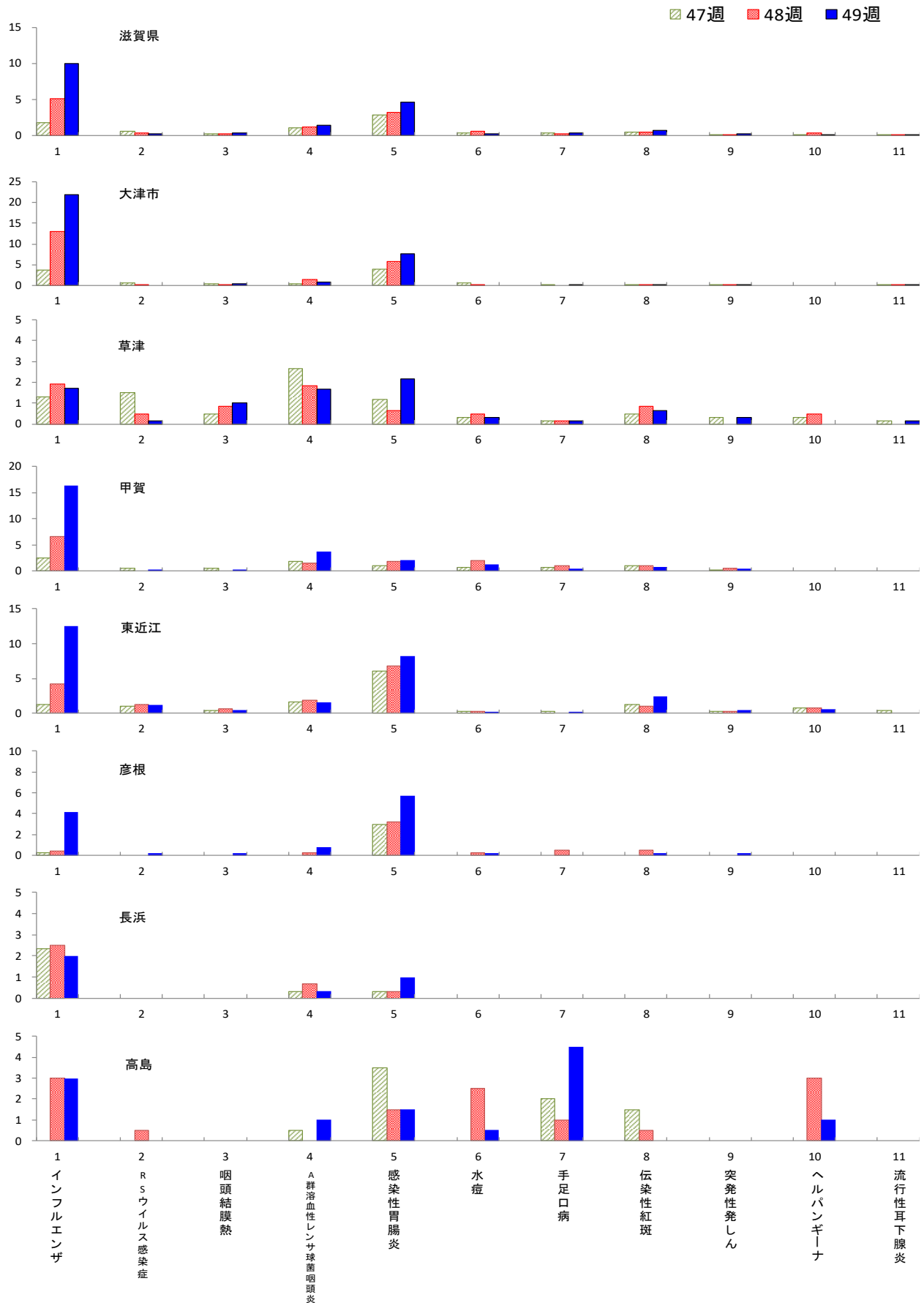
i 定点把握疾患:人口及び医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。

ii 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」を超えた場合に注意報(「注」)を発令します。

iii 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)

iv 赤字斜字:警報開始基準値を超過、紫字斜字:注意報基準値に到達

3. 定点把握疾患(五類感染症)の保健所別推移(滋賀県、今週と過去2週、縦軸;定点当たり報告数)



#### 4. 定点把握疾患(五類感染症)の年齢階級別報告数 (滋賀県、今週)

インフルエンザ定点 (52医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
インフルエンザ	521	1	3	7	18	17	26	25	48	78	45	33	115	7	11	35	32	7	8	3
大津市保健所	240	1	1	2	7	4	11	8	19	40	24	19	52	4	5	20	17	3	2	-
草津保健所	17	-	-	-	2	1	1	-	2	1	-	1	4	-	2	1	2	-	-	-
甲賀保健所	114	-	-	-	1	5	3	9	8	24	8	4	37	-	1	6	4	2	2	-
東近江保健所	100	-	1	5	5	4	10	8	16	11	9	3	18	2	2	3	2	-	-	1
彦根保健所	29	-	1	-	2	2	1	-	2	2	4	6	1	1	1	2	2	1	1	-
長浜保健所	12	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	3	1	3	1
高島保健所	9	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	1	2	-	-	1

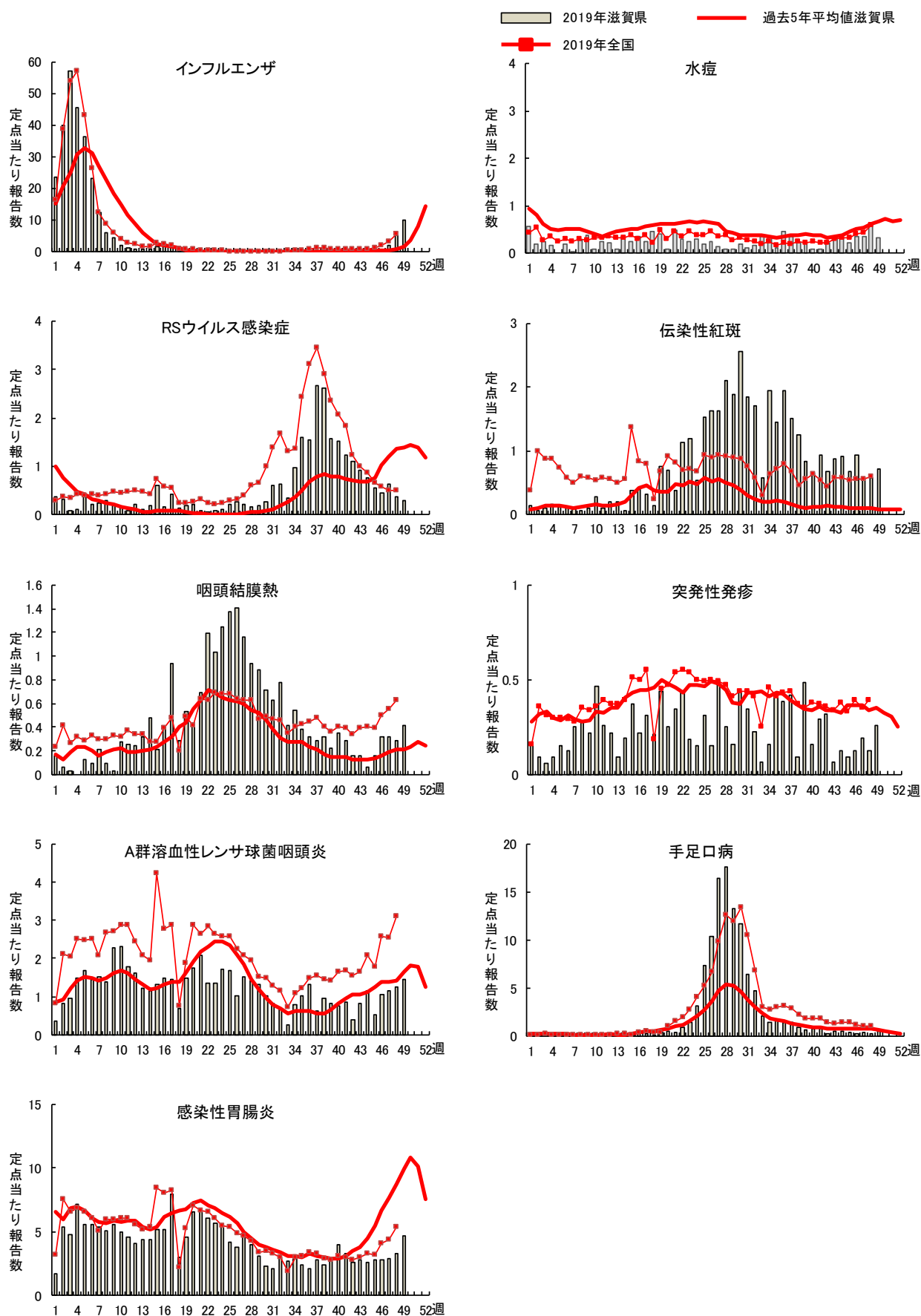
小児科定点 (31医療機関)	総数	0～5ヶ月	3～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	9	6	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱 (プール熱)	13	-	-	-	-	5	7	-	1	-	-	-	-	-	-
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	45	-	-	1	-	4	10	7	9	5	3	1	4	-	1
感染性胃腸炎	145	2	6	14	12	9	11	14	13	12	11	14	14	-	13
水痘	10	-	-	-	-	-	-	1	-	4	3	-	2	-	-
手足口病	14	-	1	2	2	2	3	2	1	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑 (リンゴ病)	22	-	1	-	2	3	2	2	4	2	-	3	3	-	-
突発性発しん	8	-	-	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	5	-	-	2	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-

眼科定点 (8医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

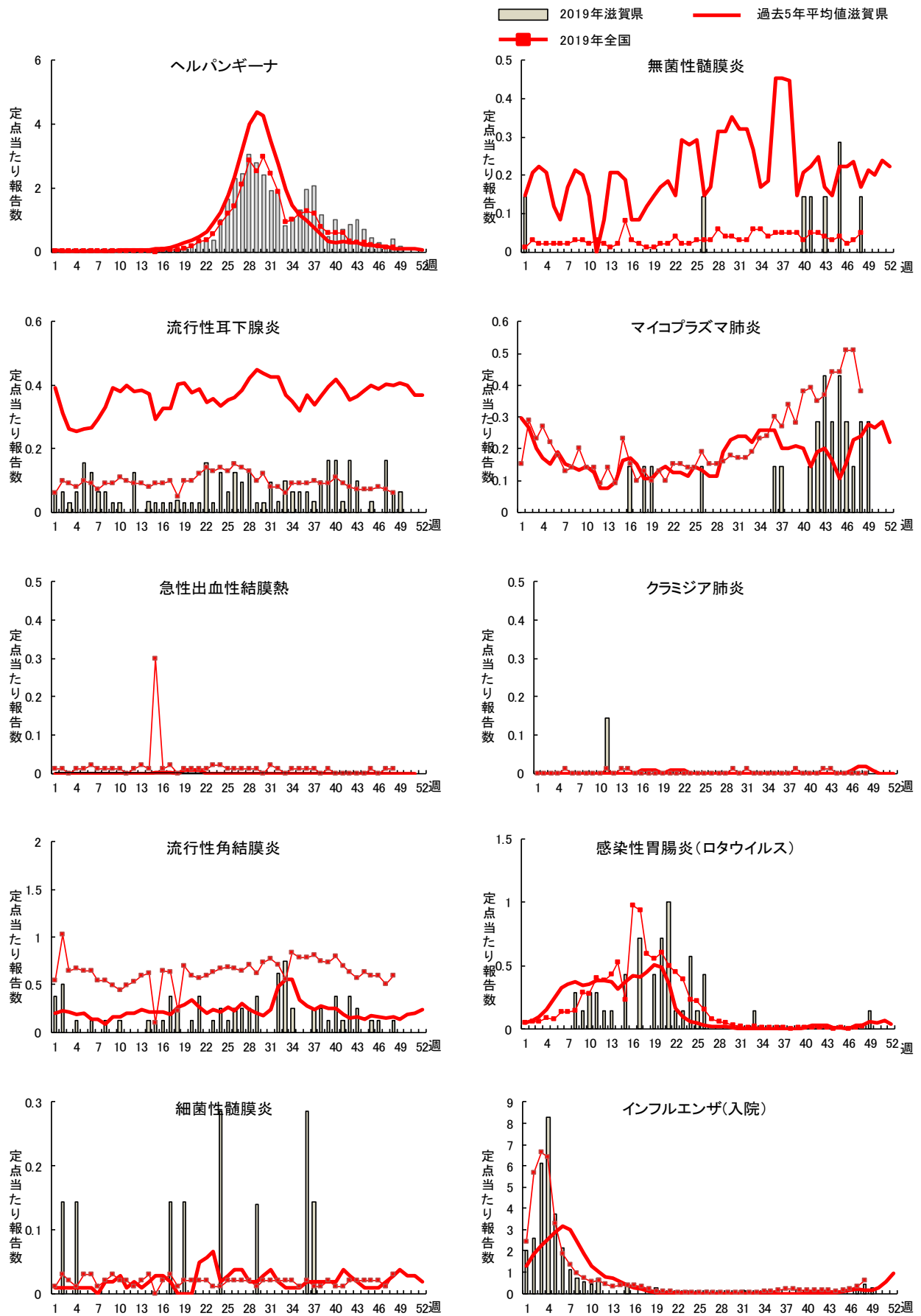
基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「-」; 報告なし

5-1. 定点把握疾患(五類感染症)の発生動向(全国は前週まで掲載)



## 5-2. 定点把握疾患(五類感染症)の発生動向(全国は前週まで掲載)



6. 全数把握疾患 詳細情報(今週報告例) <sup>▽</sup>

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	病原体等
二類	結核	49	大津市	80歳代	女	無症状病原体保有者	大津市保健所管内	-
	結核	49	草津	90歳代	女	肺結核	不明	-
二類	結核	49	高島	40歳代	男	無症状病原体保有者	県内	-
五類	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	23	長浜	70歳代	男	-	長浜市保健所管内	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	49	大津市	80歳代	女	古典型	不明	-
	後天性免疫不全症候群	49	甲賀	40歳代	男	AIDS	県内	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	49	大津市	70歳代	男	-	国内	ワクチン接種歴不明
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	49	大津市	70歳代	男	-	大津市保健所管内	ワクチン接種歴なし
	梅毒	49	大津市	80歳代	女	-	不明	-

## 注目すべき感染症

## 1. インフルエンザ関連

- (1) インフルエンザ抗体保有状況-2019 年度速報(国立感染症研究所)  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/253-idsc/yosoku/sokuhou/9249-flu-yosoku-rapid2019-1.html>
- (2) 令和元年度今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)  
対策方法、流行状況や Q&A など確認できます。  
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>
- (3) インフルエンザ様疾患発生報告(学校欠席者数)(国立感染症研究所)  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>
- (4) 抗インフルエンザ薬耐性株の検出と性状(国立感染症研究所)  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2471-related-articles/related-articles-477/9229-477r02.html>

## 2. ノロウイルス関連

- (1) ノロウイルス Q&A(厚生労働省)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)
- (2) 食中毒注意報の発令中(滋賀県健康医療福祉部 生活衛生課)  
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/syokunoanzen/16540.html>

## 3. 後天性免疫不全症候群関連

- (1) 後天性免疫不全症候群(AIDS)とは  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/400-aids-intro.html>
- (2) エイズ予防対策ネット(外部サイト)  
<https://api-net.jfap.or.jp/>
- (3) HIV/AIDS(滋賀県健康医療福祉部 薬務感染症対策課)  
HIV 相談専用電話やエイズ検査を実施する保健所の連絡先など確認できます。  
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryuhukushi/yakuzi/15267.html>

<sup>▽</sup> 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別(2019 年、全国は前週までの値) vi,vii

疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国 (前週)	昨年累積報告数	
	例年より 多い	例年より 非常に多い	累積 報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島		滋賀県	全国
二類 結核	○		228 16.14	88 25.79	37 10.90	18 12.48	34 14.87	20 12.82	23 14.86	8 16.45	19471 15.34	235 16.63	21850 17.21
三類 細菌性赤痢			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	104 0.08	2 0.14	268 0.21
腸管出血性大腸菌感染症	○		68 4.81	7 2.05	48 14.14	5 3.47	4 1.75	1 0.64	2 1.29	1 2.06	3597 2.84	30 2.12	3844 3.03
四類 E型肝炎	○		1 0.07	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.65	0 0	450 0.35	2 0.14	442 0.35
A型肝炎			2 0.14	0 0	1 0.29	1 0.69	0 0	0 0	0 0	0 0	409 0.32	1 0.07	925 0.73
重症熱性 血小板減少症候群			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	98 0.08	0 0	77 0.06
チクングニア熱			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	46 0.04	0 0	4 0.00
つつが虫病			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	215 0.17	1 0.07	455 0.36
デング熱			1 0.07	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.65	0 0	439 0.35	0 0	201 0.16
日本紅斑熱	○	○	2 0.14	0 0	0 0	0 0	2 0.87	0 0	0 0	0 0	311 0.25	0 0	303 0.24
レジオネラ症			24 1.70	2 0.59	6 1.77	0 0	6 2.62	2 1.28	6 3.88	2 4.11	2186 1.72	33 2.34	2130 1.68
五類 アメーバ赤痢	○		9 0.64	5 1.47	4 1.18	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	779 0.61	5 0.35	838 0.66
ウイルス性肝炎			2 0.14	2 0.59	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	306 0.24	1 0.07	269 0.21
カルバペネム耐性 腸内細菌感染症			7 0.50	0 0	6 1.77	0 0	0 0	0 0	1 0.65	0 0	2088 1.64	11 0.78	2253 1.77
急性弛緩性麻痺	-	-	1 0.07	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0.65	0 0	74 0.06	1 0.07	139 0.11
急性脳炎			2 0.14	0 0	2 0.59	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	798 0.63	4 0.28	657 0.52
クリプトスポリジウム症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	19 0.01	0 0	25 0.02
クロイツフェルト・ヤコブ病	○		4 0.28	1 0.29	0 0	2 1.39	0 0	0 0	1 0.65	0 0	176 0.14	6 0.42	219 0.17
劇症型溶血性 レンサ球菌感染症			8 0.57	1 0.29	1 0.29	1 0.69	3 1.31	0 0	2 1.29	0 0	836 0.66	10 0.71	687 0.54
後天性免疫不全症候群	○	○	12 0.85	6 1.76	2 0.59	2 1.39	1 0.44	1 0.64	0 0	0 0	1101 0.87	10 0.71	1292 1.02
ジアルジア症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	45 0.04	0 0.00	68 0.05
侵襲性 インフルエンザ菌感染症	○	○	10 0.71	4 1.17	2 0.59	0 0	3 1.31	1 0.64	0 0	0 0	496 0.39	7 0.50	483 0.38
侵襲性髄膜炎菌感染症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	45 0.04	0 0	37 0.03
侵襲性肺炎球菌感染症			24 1.70	5 1.47	7 2.06	3 2.08	5 2.19	3 1.92	1 0.65	0 0	2942 2.32	41 2.90	3299 2.60
水痘(入院例)			2 0.14	1 0.29	1 0.29	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	446 0.35	5 0.35	461 0.36
先天性風しん症候群			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 0	0 0	0 0
梅毒	○		32 2.26	14 4.10	4 1.18	2 1.39	11 4.81	0 0	1 0.65	0 0	6079 4.79	24 1.70	6923 5.45
播種性クリプトコックス症			1 0.07	1 0.29	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	141 0.11	2 0.14	178 0.14
破傷風			1 0.07	1 0.29	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	115 0.09	0 0	130 0.10
バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	○		1 0.07	0 0	0 0	0 0	1 0.44	0 0	0 0	0 0	72 0.06	2 0.14	79 0.06
百日咳	-	-	129 9.13	83 24.33	8 2.36	8 5.54	11 4.81	6 3.84	8 5.17	5 10.28	15824 12.47	141 9.98	11947 9.41
風しん	○		7 0.50	3 0.88	2 0.59	1 0.69	1 0.44	0 0	0 0	0 0	2274 1.79	12 0.85	2917 2.30
麻しん	○	○	9 0.64	1 0.29	3 0.88	2 1.39	0 0	0 0	3 1.94	0 0	736 0.58	1 0.07	282 0.22
薬剤耐性 アシネトバクター感染症			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	24 0.02	0 0	24 0.02

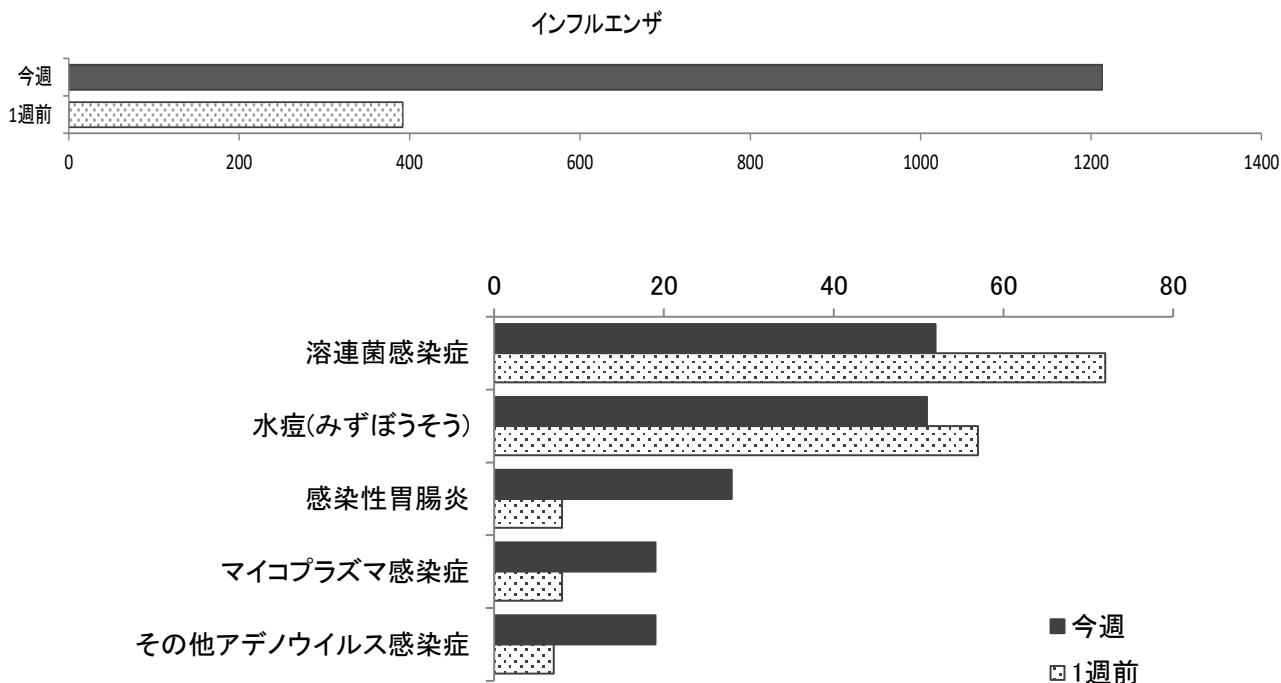
vi 今年第 1 週以降に診断された感染症の累計報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に今年の「累積報告数」、下段に「人口 10 万人当たりの累積報告数」を記しています。

vii 今年と過去 5 年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記



**【参考】今週の学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)概況(滋賀県、今週)**

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校等欠席者・感染症情報収集システム ([https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view\\_all.php](https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view_all.php))へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。



**【全国情報】 国立感染症研究所 感染症疫学センターHP に掲載されています。**

- 感染症発生動向調査 週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>
- 病原微生物検出情報 (IASR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>
- インフルエンザ様疾患発生報告 (学校欠席者数) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

**【届出対象疾患】 厚生労働省 HP に掲載されています。**

- 感染症法に基づく医師の届出のお願い  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html)

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

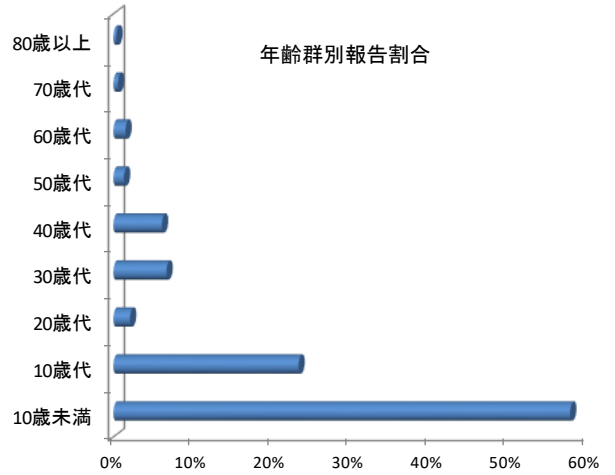
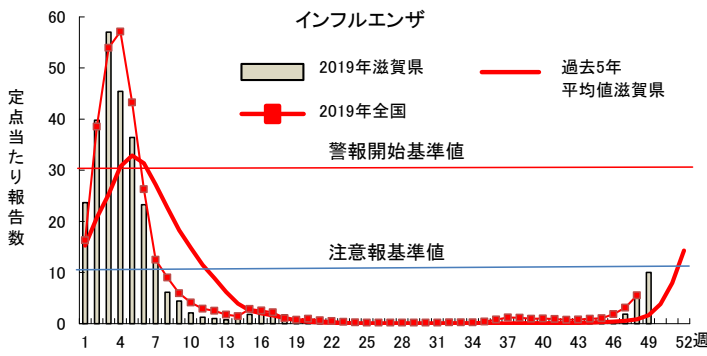
滋賀県感染症情報センターHP

<https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/info/300857.html>

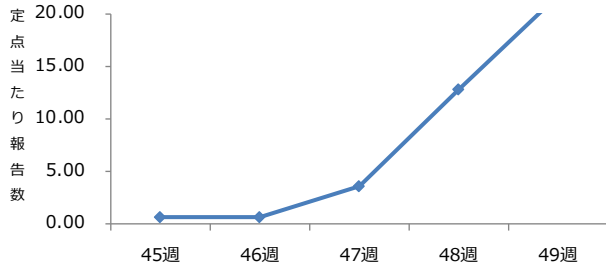
イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」



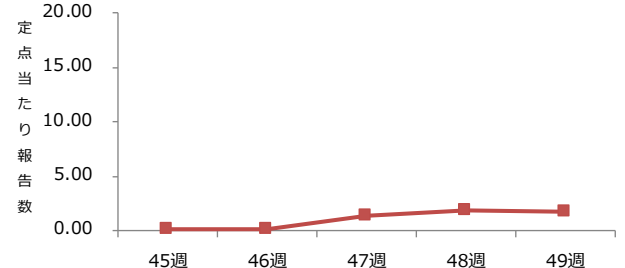
# インフルエンザの発生動向 2019年49週 滋賀県



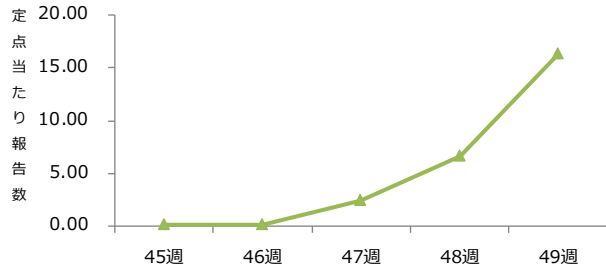
大津市



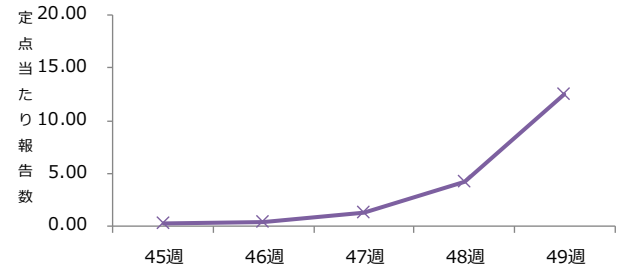
草津



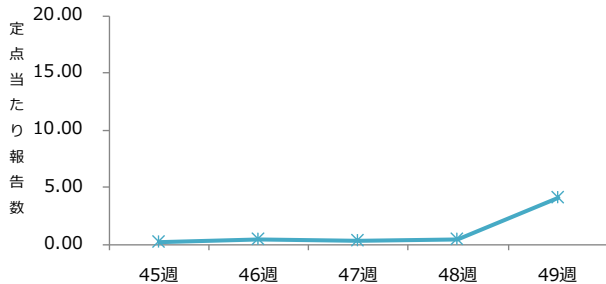
甲賀



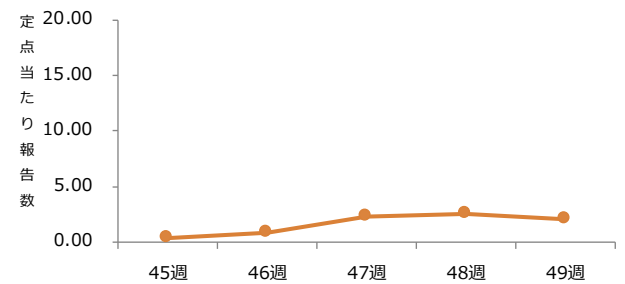
東近江



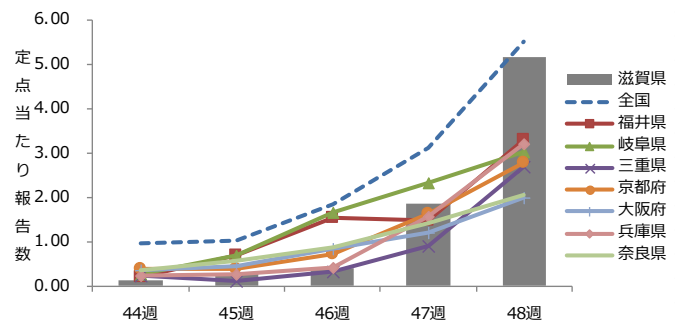
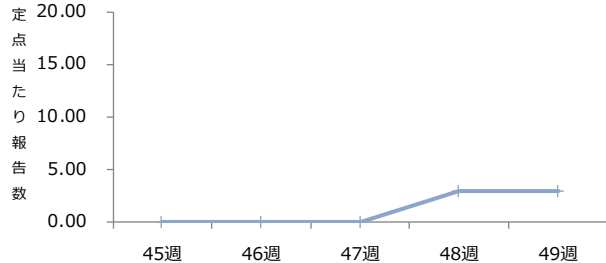
彦根



長浜



高島



# 滋賀県の後天性免疫不全症候群の発生動向 2019年第1-49週

1. 2019年の年間累積報告数は、2014年以降で最も多くなった（図1）。また、49週現在において、感染症法に基づく調査が開始された1999年以降で、報告数が最も多かった2013年（13名）の次に多く報告されている。
2. 2014-19年は、男性は20-50歳代、女性は50歳代に多い（図2）。
3. 推定感染経路は男性の同性間性的接触が多い（図3）。
4. 滋賀県における2014-18年の「いきなりエイズ」（報告時の病型がAIDS）の割合（滋賀県；49%）は、全国（30%）と比べて高い。

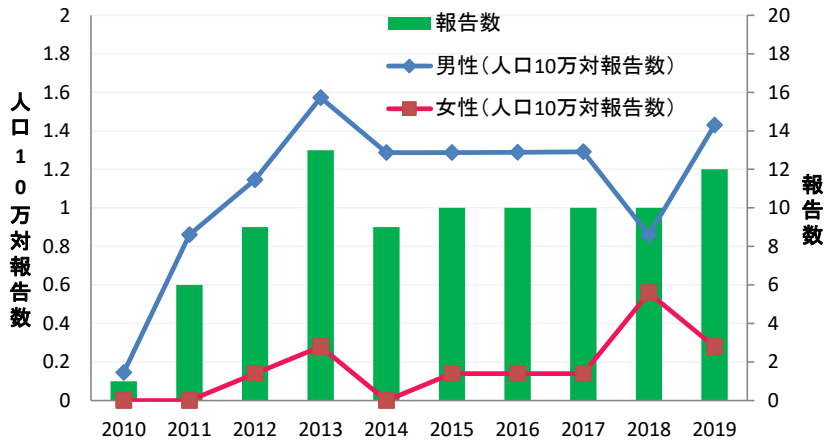


図1. 後天性免疫不全症候群の発生動向（滋賀県、2010年第1週-2019年49週）

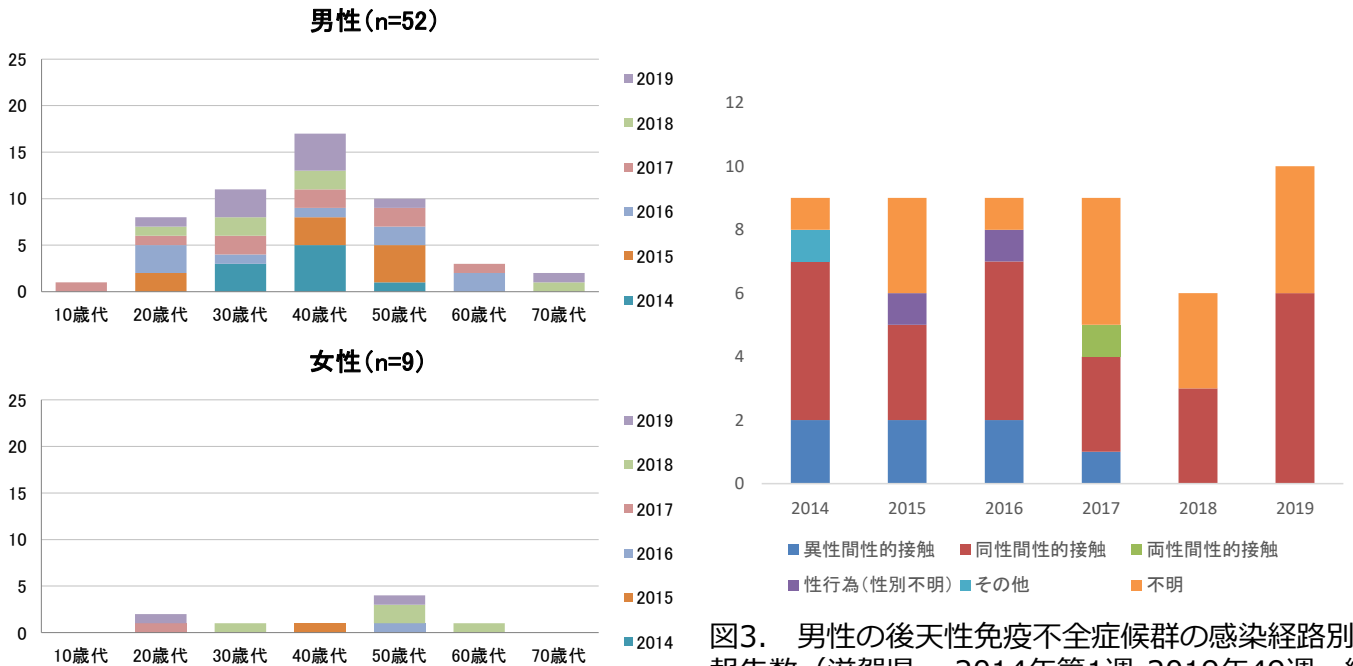


図3. 男性の後天性免疫不全症候群の感染経路別報告数（滋賀県、2014年第1週-2019年49週、縦軸；報告数）

図2. 後天性免疫不全症候群の年齢群別報告数（滋賀県、2014年第1週-2019年49週、縦軸；報告数）